

ID No.	3050
研究課題名	ヘルペスウイルスのレセプターの同定
研究代表者	前田 健 (国立感染症研究所・部長)
研究組織	
受入教員	川口 寧 (東京大学医科学研究所・教授)
研究分担者	下田 宙 (山口大学・准教授) 石嶋 慧多 (山口大学・博士研究員) 黒田 雄大 (山口大学・大学院生) 立本 完吾 (山口大学・大学院生) 加藤 哲久 (東京大学医科学研究所・助教) 有井 潤 (東京大学医科学研究所・助教)
研究報告書	
	<p>ヘルペスウイルスは宿主とともに共進化してきたウイルスである。その中でも、猫ヘルペスウイルス(FHV-1)はin vivo並びにin vitroともに宿主域がネコに限定されている宿主域が限定されている極めて稀なアルファヘルペスウイルスである。我々は、FHV-1に対する宿主側レセプターの同定を目的に共同研究を行った。FHV-1の感染を阻害する細胞側因子を認識するモノクローナル抗体1E3-A7の作製に成功した。しかし、本モノクローナル抗体はブタのアルファヘルペスウイルスであるオーエスキー病ウイルスのネコ由来培養細胞への侵入を阻止しなかった。また、このモノクローナル抗体は、FHV-1の細胞への吸着ではなく侵入を阻害すること、75kDaの糖蛋白を認識することが明らかとなった。このモノクローナル抗体の認識する糖蛋白を特定すべく、更なる共同研究を行ってきたが特定には至っていない。認識分子が特定できればヘルペスウイルスの宿主域に関する新たな知見が得られるものと現在も進行中である。一方、ヘルペスウイルスの宿主域により生じる致死感染症に関して、国内での新たな疫学研究に関して共同研究も開始した。家畜届出伝染病に指定されている悪性カタル熱が反芻獣での致死感染の疫学調査、オーエスキー病ウイルスのアライグマへの致死感染の疫学調査、Bウイルスのサルからヒトへの感染に関する診断法の開発などである。ヘルペスウイルスの宿主域規定因子の重要性を改めて証明することに成功した。</p>